

気象の最前線！佐賀地方気象台

警報や気象情報が提供されるまで

●特集●
梅雨を前に
災害への備えを
万全に

大雨に備えて私たちにできること

今年も梅雨時期を迎え、大雨による災害への備えが必要な季節になります。今月号では、佐賀地方気象台予報官へのインタビューを行い、梅雨時期の気象の特徴や、気象情報の種類、情報の入手手段や私たちにできる防災への取り組みについて見ていきます。



▶ 風や雨雲の動き、日照データを収集し、分析する気象現業室。気象レーダーや予報作業支援システムを駆使して分析を行います。

佐賀地方気象台予報官に聞く： 気になる今年の梅雨の傾向は？



佐賀地方気象台予報官
うちやま ひさと
内山 久人さん

予報官の業務は？
予報官は、気圧、気温、湿度、風向、風速などの観測データを基にした

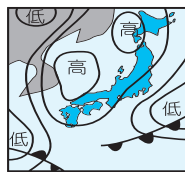
数値予報により、明後日までを対象とした短期予報や週間予報を発表します。テレビや新聞などで目にする天気予報を発表することが主な業務と思われるのですが、大雨や土砂災害による被害を防ぐための気象情報や注意報、警報などの『防災気象情報』を発表することがメインの仕事です。

◎梅雨の傾向を知ることができる情報には何がありますか？
3か月、1か月先の気温や降水量を大まかに予想する『季節予報』があります。

◎今年の梅雨の傾向は？
予報では、6月は平年に比べて曇りや雨の日が少なく、降水量は平年並みか少ない見込みです。7月は、平年に比べて曇りや雨の日が多く、降水量は平年並みか多い見込みです。(利用される場合は、新しい予報を確認ください)



▲1時間あたりの雨量の強さを示す「気象レーダー」について説明する内山さん



◎今年特に懸念される気象の特徴は？

5年ぶりの『エルニーニョ現象』が予想されるため、日本付近への太平洋高気圧の張り出しが弱く、前線が停滞しやすくなる懸念があります。

5年前は、平成21年7月中旬・九州北部豪雨が発生して1時間に100ミリを超える猛烈な雨をもたらし、梅雨明けは8月になった事例があります。

◎気象に関する情報を利用するときのポイント

気象台では、災害発生が予想される際には、注意報や警報発表に先立って1日から数日前に予告的な情報を発表して注意を呼びかけています。情報には、佐賀県で予想される「気象状況」「警戒を要する期間」「雨の予想」などを分かりやすく示していますので、情報から読み取り活用してください。

気象台が発表する気象情報

気象台では、大雨や強風などによって災害が起こるおそれがある際には「注意報」を、重大な災害が起こるおそれのあるときは「警報」を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは「特別警報」を発表して注意や警戒を呼びかけます。

大雨警報、洪水警報

大雨警報は、雨による重大な災害が発生するおそれがあると予想した際に発表します。また、洪水警報は、大雨、長雨などにより河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。

土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報は、市町村長が避難勧告等を発令する際の判断や、自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表します。土石流、がけ崩れなどの土砂災害の危険度が高まったときに発表します。

指定河川洪水予報

河川の増水や氾濫のおそれがある場合に発表します。指定された河川について、危険度のレベルに応じて発表し、レベル3以上の情報が発表されたときは、早目に避難してください。